

## 伊達東仮設住宅生活再建アンケート（速報）

（主催）伊達東仮設住宅自治会

（協力）NPO 法人エコロジー・アーキスケーブ

日本大学生物資源科学部・糸長研究室

【対象者】伊達東仮設住宅の全世帯（90 世帯）に配布。回収数 51 件（56.7%）

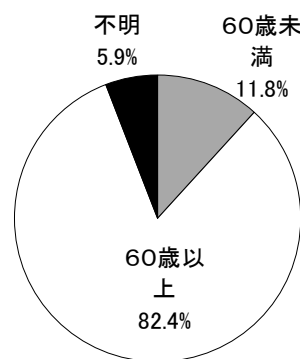
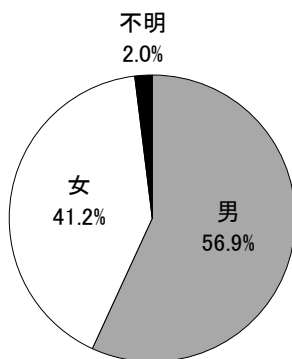
【実施時期】2014 年 5～6 月

※本調査は、公益財団法人 J K A（RING!RING! プロジェクト・東日本大震災復興支援補助）からの支援及び、文科省からの研究補助金(糸長浩司代表及び担当)によって実施しました。

### 【基本属性】

#### ①回答者の性別と年齢

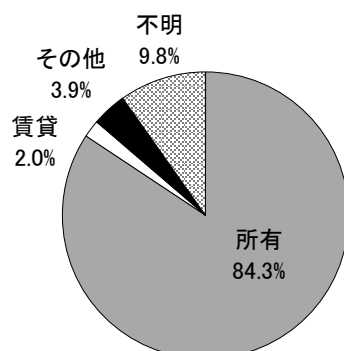
回答者は 51 名であり、8 割超が「60 歳以上」であり、仮設住宅の特徴を表している。高齢者の避難者がどう考えているかが明らかとなるが、若い村民の意見は反映されていない。また、男女はほぼ半分である。



(n=51)

#### ②村の自宅の所有形態

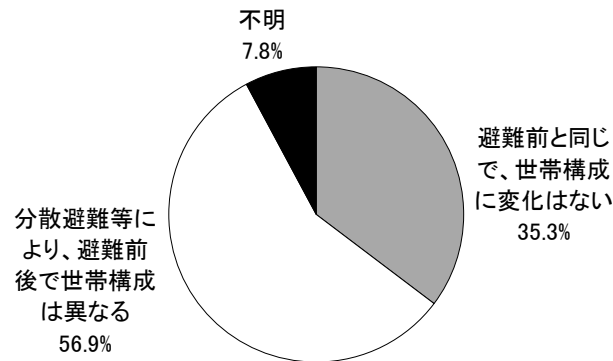
村に自宅を所有している人は 8 割超であり「賃貸」の方は 2.0%である。戸建て住宅の持ち家に暮らしていたことが分かる。



(n=51)

### ③避難前後での世帯構成の変化

避難によって、世帯分離のあった人は6割弱に達している。これは、2012年10月に実施した全村民アンケート結果と同様の比率である。以前のアンケート調査等から、仮設住宅の面積制限から、多世代同居ができないことや、若い世帯は早めに避難したことを反映していると思われる。



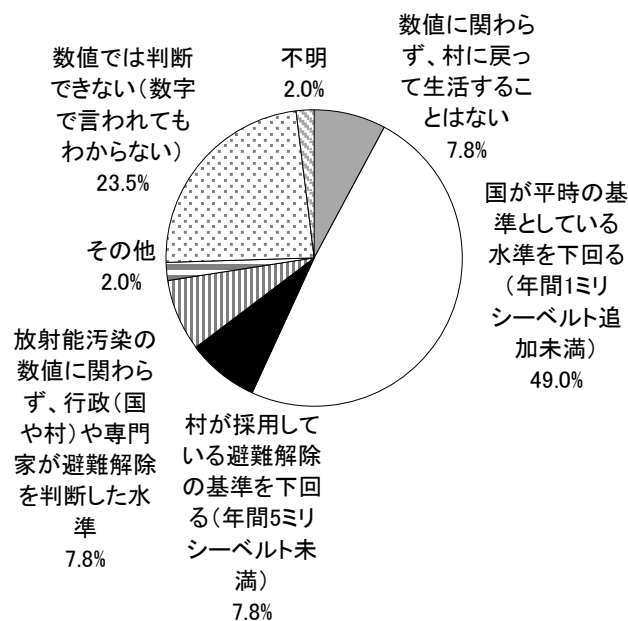
(n=51)

### 【問1】あなたが村に戻り、暮らせると思う放射能の値はどの程度ですか。(○は一つ)

約半数の人が「国が平時の基準としている水準を下回る（年間1ミリシーベルト追加未満）」と回答しており、「数値に関わらず、村に戻って生活することはない」と回答した人（7.8%）も加えると6割弱が、現実的に村外で生活再建することになると考えられる。この比率も2012年10月に実施した全村民アンケート結果と同程度である。ただ、村に戻らないという回答比率は、2012年10月の調査では、22%あり、若い世代の意向が反映していたのに対して、今回の対象者（伊達東仮設の住民）は完全に村には戻らないという判断の後継者は少ないといえる。

一方で、現時点で帰村の可能性が高いと考えられる回答をした人は、2割弱に留まった。

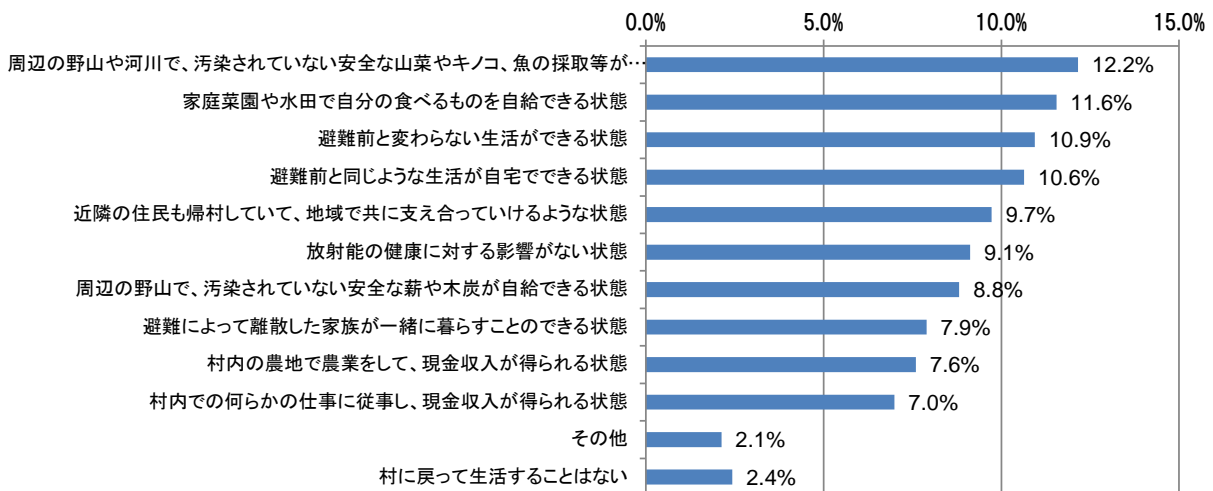
なお、特筆すべきは「数値では判断できない（数字で言われてもわからない）」という人が4分の1に達していることである。復興等に関する議論は数字を用いて進められているが、構想づくり等に広範な住民の参加を促すためには、汚染に関する他の情報提供方法を創造することも求められる。



(n=51)

**【問2】あなたが“帰村して生活できる”あるいは“帰村したい”と感じるのは、村がどのような状態に戻ったときですか。(〇はいくつでも)**

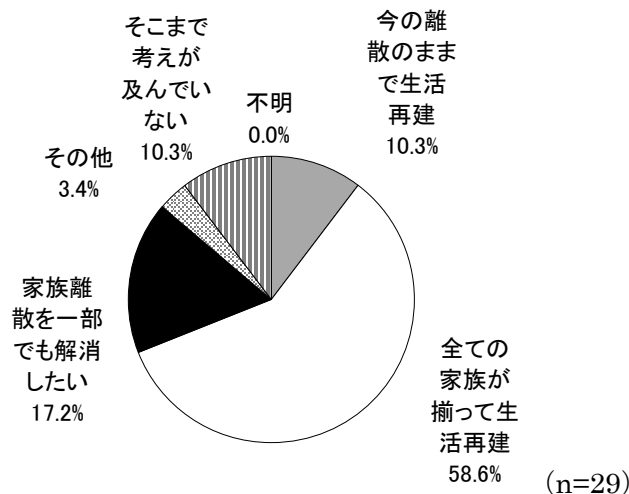
放射能災害に向き合う生活に関しては経験の無い状況であり、この問いは難しいものであったと思われ、回答者が帰村後の生活のイメージが描きにくい点もあり、各項目での選択率は低い。選択された項目は、それぞれ回答者の1割程度に留まる。その内高い項目は、食の自給、特に自然の恵みである山菜、キノコ、魚を捕食すること等であり、自然の恵みを頂く暮らしの回復を期待している。高齢者が多いことも影響しているが、“までいな”暮らしのできる回復を条件としている。年金暮らしの高齢者達であり、現金収入を伴う経済行為に関するニーズは相対的に見て低い。



(n=51)

**【問3】分散避難等、避難前後で家族構成が異なっている（基本項目③で「2」を回答した）方のお聞きします。再建時の家族構成はどのようにお考えですか。(〇は一つ)**

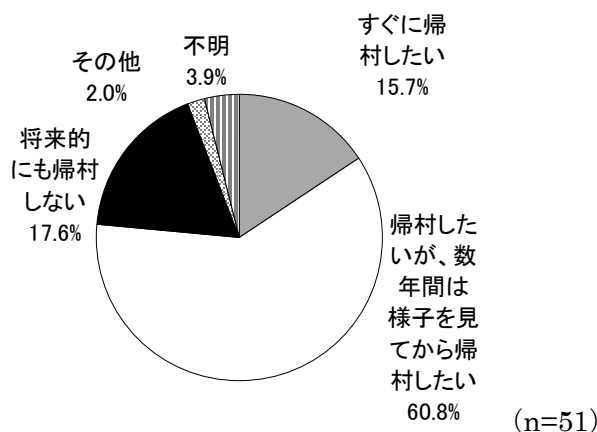
「全ての家族が揃って生活再建」の6割が最多で、「家族離散を一部でも解消したい」を合わせると全体の4分の3になる。震災前の家族一緒に暮らせる家族の回復に対する要求が高い。一方で、「家族離散を一部でも解消したい」と「今の離散のままで生活再建」の2つを合わせると4分の1超を超えており、家族揃って生活再建することが容易でないと考えている人も少なからず存在することがわかる。



(n=29)

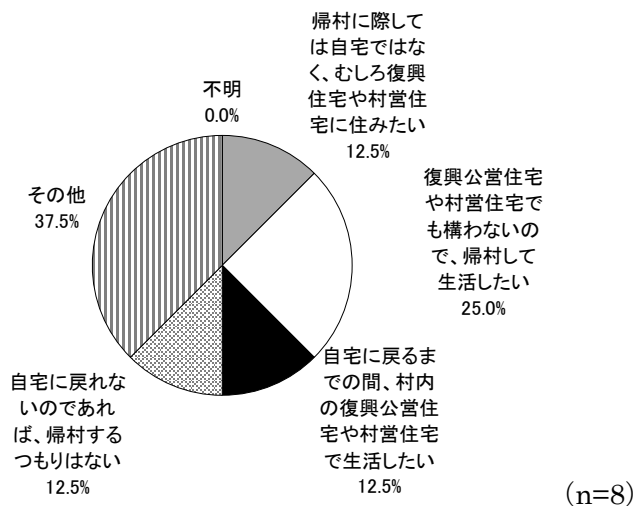
【問4】村では2016年から順次、避難指示を地区別に解除する考えですが、こうしたタイミングで避難指示が解除された場合、あなたはどのような対応をしたいと思いますか。(〇は一つ)

避難指示が解除された時点で「すぐに帰村したい」と回答した人は15.7%に留まり、「将来的にも帰村しない」の17.6%も下回る。2012年暮れの全村民アンケートでは、「すぐに帰村したい」と回答した人は15.8%、「将来的にも帰村しない」の18.4%であり、同様の傾向である。今回の調査では後継者が多いことを考慮すると、村民達の帰村に対する厳しい判断は高齢者においても同様であるといえる。大多数(6割超)は「帰村したいが、数年間は様子を見てから帰村したい」を回答している。この比率も2012年の調査では5割程度であった。このような結果は、村が帰村宣言をしても、すぐには戻らず避難先での暮らしを継続し、長期的な避難生活、あるいは二地域居住が継続することを希望する人が多いことを示している。この傾向は既に帰村宣言をした川内村での村民の行動と似ている。こうした生活を実現するための準備や支援が国、県、村当局に求められる。また、民間支援も必要となってきた。



【問5】問4で「1. すぐに帰村したい」を回答した方のみにお聞きします。帰村に向けて村内では復興公営住宅、村営住宅の整備や改修が計画されています。こうした住居で生活することについて、どのように感じますか。(〇は一つ)

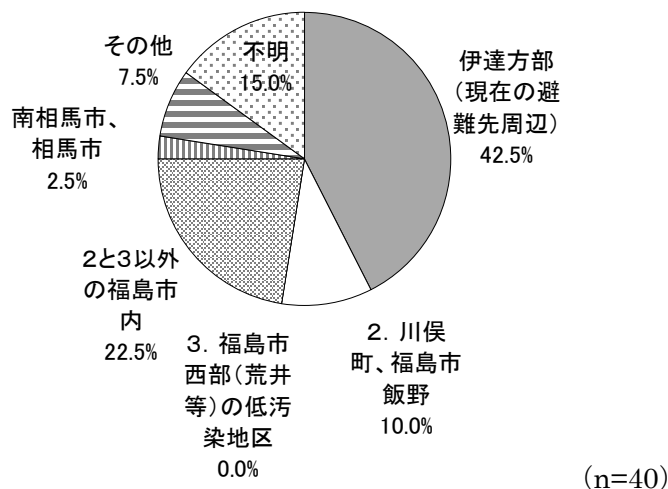
サンプル数8件と僅少であり分析は困難であるが、帰村希望者は自宅以外であっても帰村したいと考えている人が半数に達することがわかる。



【問6】問4で「2. 帰村したいが、数年間は様子を見てから帰村したい」「3. 将来的にも帰村しない」を回答した方のみにお聞きします。村外での生活再建、あるいは避難生活が長期化する場合、あなたはどこで生活することを希望しますか。(○は一つ)

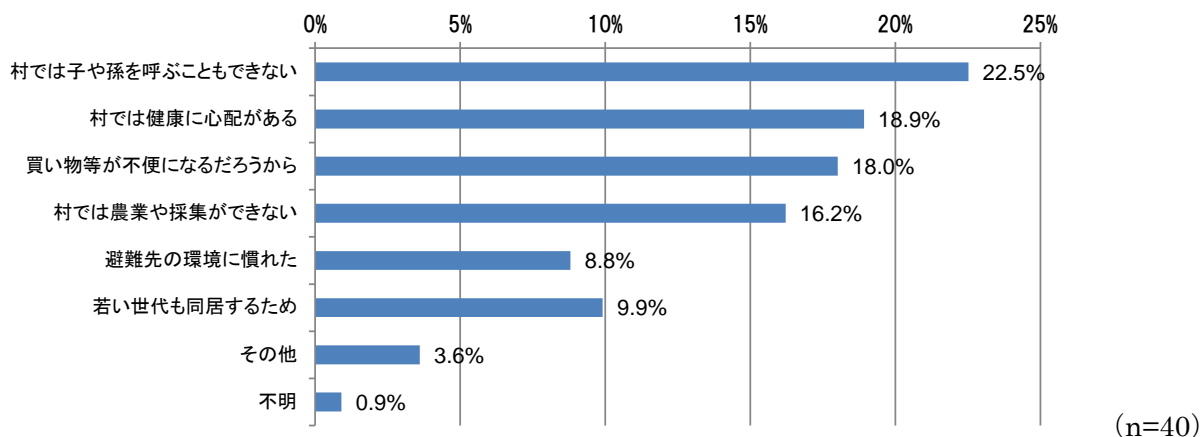
当面の生活再建の場としての望ましい地域についての回答を見ると、4割以上が「伊達方部」を回答している。今回のアンケートが伊達東仮設住宅であり、飯舘村から伊達東の仮設を選定した理由として、伊達方面へのつながり、近親感がある等が想定でき、その後の生活再建の場所としても、伊達方面を想定しているといえる。その意味では、伊達地域での行政との協働による生活再建地の創造等が必至であり、飯舘村当局と伊達地域の行政当局との連携が必至となっている。

それ以外では、川俣町・福島市内での生活再建を3割強が望む。仮役場のある福島市飯野地区は高くない。



【問7】問4で「2. 帰村したいが、数年間は様子を見てから帰村したい」「3. 将来的にも帰村しない」を回答した方のみにお聞きします。なぜ、村外での生活再建、あるいは避難生活の延長を希望するのですか。(○はいくつでも)

問4で帰村しない、当面は様子を見ると回答した人は、すぐに帰村すると人より多く「村では子や孫を呼ぶこともできない」が22.5%と最も高く、高齢者にとって震災以前の多世代暮らしへの要求が高い。後は、健康の心配、買い物が不便になると続く。避難先が比較的都市的地域であり、買い物、各種のサービスに関して飯舘村より近く、便利であるという避難暮らしに慣れたことが帰村意向を抑える傾向も見える。

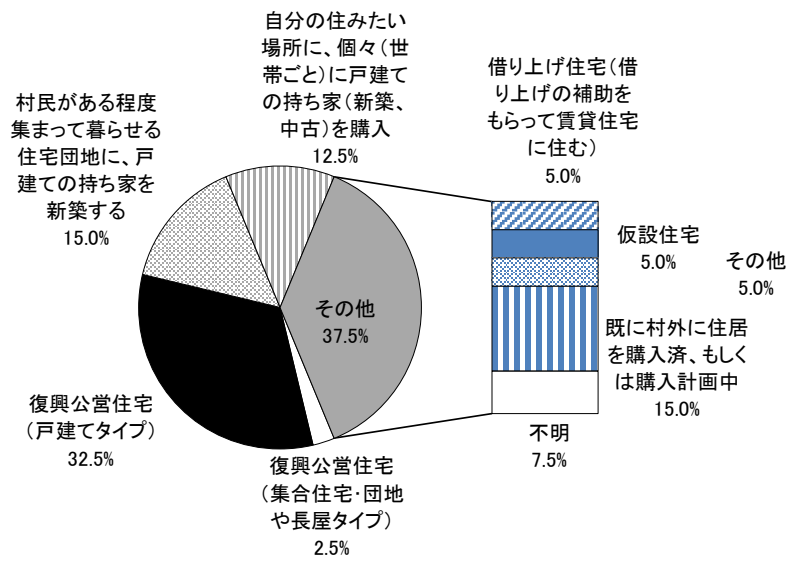


【問8】問4で「2. 帰村したいが、数年間は様子を見てから帰村したい」「3. 将来的にも帰村しない」を回答した方のみにお聞きします。村外での生活再建、あるいは避難生活延長の場合、あなたはどのような住居を希望しますか。(〇は一つ)

「復興公営住宅（戸建てタイプ）」への希望は32.5%で約3分の1、これに「村民がある程度集まって暮らせる住宅団地に、戸建て持ち家を新築する」が15.0%、「自分の住みたい場所に、個々（世帯ごと）に戸建ての持ち家（新築、中古）を購入」が12.5%で続く。戸建て意向は6割あり、飯舘村でしていたような持ち家暮らしの回復意向が高い。復興公営意向が高いのは、高齢者であり、今後住宅建設への出費に関して厳しい世帯が多いことを示している。一方で、「既に村外に住居を購入済、もしくは購入計画中」が15.0%に達する。高齢者の回答が多いアンケートでこのような状況であることを踏まえると、若い世帯は移住先での住宅取得希望がより高いものと考えられる。

また、表に示したように伊達方部での生活再建希望者（16人）について見ても、同様の傾向で「復興公営住宅（戸建てタイプ）」が37.5%、「村民がある程度集まって暮らせる住宅団地に、戸建て持ち家を新築する」「自分の住みたい場所に、個々（世帯ごと）に戸建ての持ち家（新築、中古）を購入」が各18.8%で続いている。

この結果から戸建てでの生活再建希望者が多く、さらに村外での村民集住を希望する人も少なからず存在していることが読み取れる。

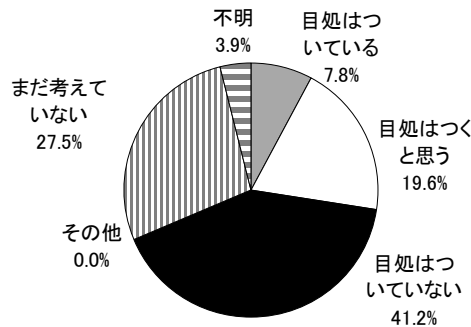


表：伊達方部居住希望者の生活再建時に希望する住居形態（単位：件）

1. 復興公営住宅(集合住宅・団地や長屋タイプ)	0
2. 復興公営住宅(戸建てタイプ)	6
3. 村民がある程度集まって暮らせる住宅団地に、戸建ての持ち家を新築する	3
4. 自分の住みたい場所に、個々(世帯ごと)に戸建ての持ち家(新築、中古)を購入	3
5. 仮設住宅	2
6. 借上げ住宅(借上げの補助をもらって賃貸住宅に住む)	1
7. 一般の賃貸住宅(借上げの補助をもらわずに、自己資金で賃貸住宅に住む)	0
8. その他	0
9. 既に村外に住居を購入済、もしくは購入計画中	1

**【問9】あなたが望む生活再建をするための、経済的な目処はついてますか。(○は一つ)**

「目処がついている」と「目処がつくと思う」を合わせても 27.5%であるのに対して、生活再建に経済的な「目処はついていない」が 4 割超で最も多く、「まだ考えていない」3 割弱に達し、合わせると 7 割近くが、生活再建のための経済的な目処が厳しい状況にある。これは高齢者の比率が高いこと、飯舘村での「までいな暮らし」ではお金は余り使わなくても自然の恵みを得ることで生活が出来ていたのが、避難生活では金銭的な裏付けがなく厳しいと判断している高齢者が多いといえる。今後、行政の帰村宣言が出た場合、村外の避難先での自力生活再建ができない高齢者の村民達は、被曝リスク覚悟での帰村を強いられる事態も発生することが危惧される。

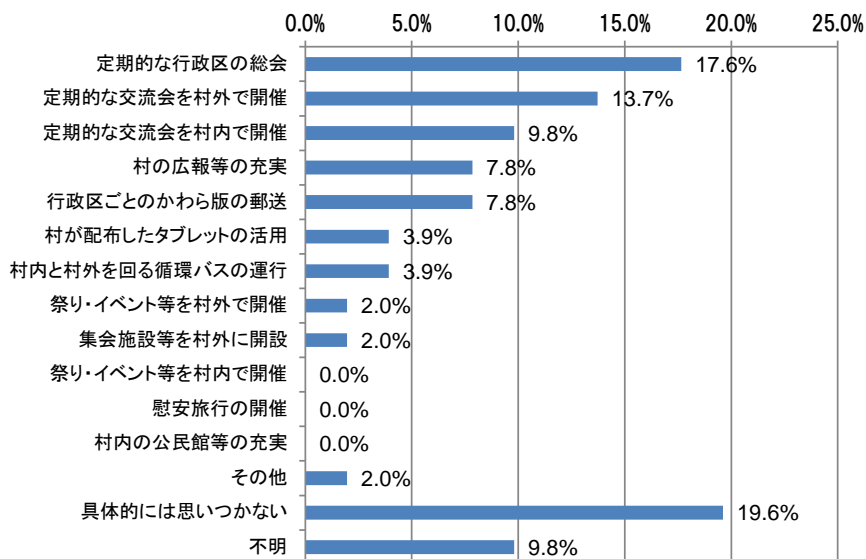


(n=51)

**【問10】今後、飯舘村は帰村して生活再建する人と、村外に留まって生活再建する人に分かれることが想定されますが、あなたはこうした状況において両者の絆を維持していくために、どのような施策が必要だと思いますか。(○は一つ)**

具体案を持たない人が 2 割と多い中、紐帯維持のために必要だと考えられる施策を上位から見ていくと「定期的な行政区の総会」17.6%でトップ、「定期的な交流会を村外で開催」13.7%がこれに続く。3位は「定期的な交流会を村内で開催」(9.8%)となっているが、交流会は村外開催を望む声の方が若干上回る結果となった。村の広報やタブレットに対する期待値は低く、お互いの顔の見える機会と場づくりが求められているといえる。

※択一回答の設問であるが、選択肢が多いため棒グラフを採用した。

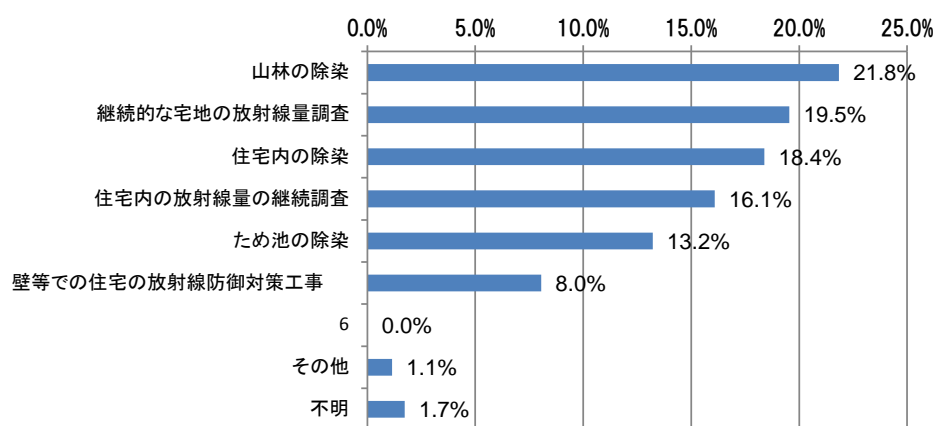


(n=51)

【問 11】現時点では未着手、あるいは実施しないことになっている村内の放射能汚染に対する対処策について、あなたが必要だと思うものをお答えください。(〇はいくつでも)

除染や対策に関しての各選択肢への回答率は低く、最高でも2割に留まる。これは、放射能災害が複雑で前例がなく、何が的確な対策であるのかについて国ですら暗中模索の中で、村民にとっては難しい選択となっていることを示している。

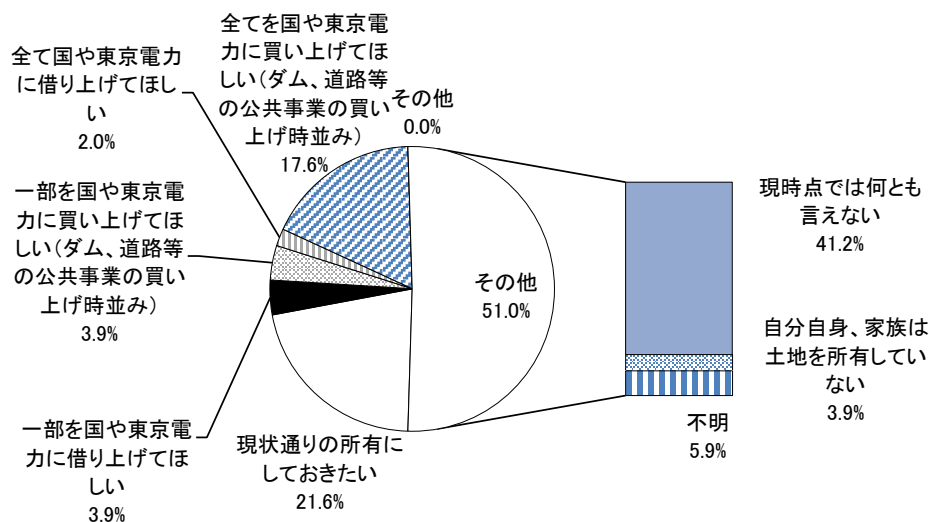
上位から見ると「山林除染」、「継続的な宅地の放射線量調査」「住宅内の除染」が2割前後で続いている。飯舘村は山が多く、住宅も多くが山に囲まれている。山林の除染の難しさを理解しつつも、ここへの期待が一番高い。また、日本大学が実施した住宅内外の放射線量調査結果は、伊達東仮設自治会でも報告会を開催し、屋内汚染対策の必要性は認識されつつある。この仮設住宅からも一時帰宅している住民は多く、全面帰村はしないものの、安心して一時居住できる住宅環境の回復を要求する声も少なくない。



(n=51)

【問 12】不動産の賠償指針が示されていますが、あなたや家族が村に所有している土地の今後の扱い方について、どのようにお考えですか。所有名義の有無に関係なく、あなた個人の考えで回答ください。(〇は一つ)

「現時点では何とも言えない」が4割超で最多となっているが、既に具体策を提示した人では「現状通りの所有にしておきたい」(21.6%)が最多で、次いで「全てを国や東京電力に買い上げてほしい(ダム、道路等の公共事業の買い上げ時並み)」(17.6%)となっている。



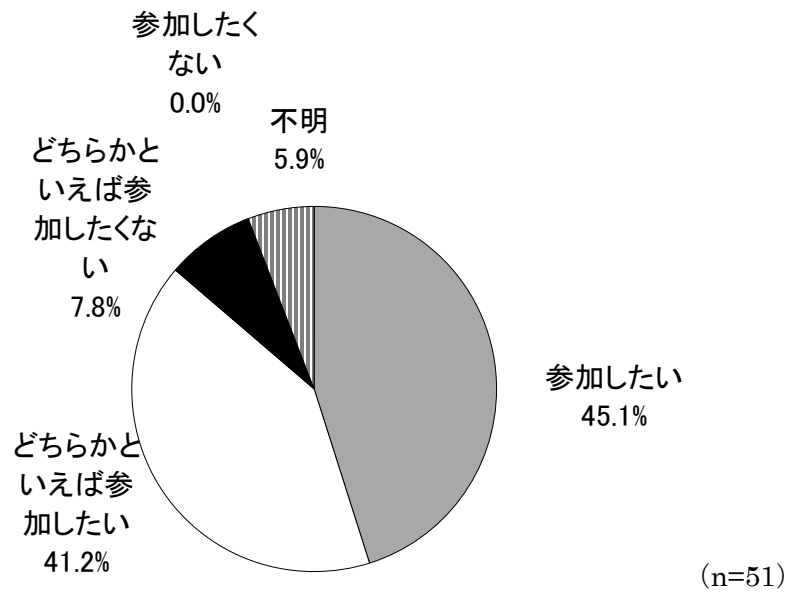
(n=51)



【問 13】伊達東仮設自治会では、専門家による放射能や健康に関する対策・影響等の講演会や相談会を開催しており、今後も継続的に実施予定ですが、あなたはそのような機会に参加したいですか。当てはまるもの一つに○をつけてください。また、専門家に相談したい、聞きたい事項等がある場合、枠内にご記入ください。

「参加したい」だけでも 45.1%に達しており、「どちらかと言えば参加したい」を加えると 8割を超える結果となった。高齢者ではあるが、放射能災害に対して前向きに対処していきたいという意識が高いことを示しているともいえる。

また、東電、国、県、村当局の対処の遅れ、説明不足等に対する不信が高いことから、様々な情報を自分たちで収集することを望む結果になっているとも考えられる。



<具体的な相談内容、聞きたいテーマ>

- ・今終わろうとしている 3.11。でもこれからが大変？命ある限り保障して欲しいです。
- ・土地の件
- ・一人に対しての金額では私等は不足です。これでは生活していけないから一戸なんぼとしてもらいたいです。そうでないと一人一人は死んでしまいます。国と東電では。
- ・放射能の健康に関する影響などの分かりやすい説明をお願いします。
- ・今後の放射能に対する健康への影響

【問14】生活再建に当たって、あなたが期待する施策や事業等がございましたら、枠内に自由に記入してください。

＜回答文章一覧＞

- ・生活再建に当たって、アンケート調査がある度に、希望として戸建てで、飯舘村にも近い川俣町とか、飯野町とかを望んでいるが、今のところ子育て世代とか高齢者が優先されているが、それに当てはまらない年代なので、そこが一番不安に思っている部分です。できれば、同じ行政区の方々とまとまって生活再建できれば尚良いです。
- ・年齢的なことが有り？
- ・今の所どんな生活をしたら良いか考え中です
- ・村民は帰りたいと思う心は一つ。あまりにも置き去りにされている村民の心。時が経つにつれて心は疲れ、生きる希望も弱まり、何がどうしていいのかわからないのです。少しでも老人、若者、子供の立場で考え進めてください。あまりにも無視されている村民の心。帰村をできる対応をしてください。
- ・自宅に戻りたい思いで決意しましたが、老後の生活を考える時に経済的に不安が強いです。